

ぶんだん

おおごしょ

きくち かん

きゅうせい

文壇の大御所・菊池寛、急逝！

菊池寛
生誕 130 年・没後 70 年

きくちかん新聞

第 6 号



▲ 小学生のころの菊池寛。



在りし日の きくちかん

こと) した。59 歳(さい) だつた。文壇の大御所(おおごしょ) と呼ばれた菊池寛は、後世(こうせい) に何(なに) を遺(のこ) したのだろうか。

菊池寛が生まれた時代は、作品を書いても発表できる場所が少なかつた。インターネットは無く、本や雑誌、同人誌(どうじんし) (仲間(なかま) と共同(きょうどう) で発行(はつこう) する雑誌) などが、主(おも) な発表の場だつた。学生時代(よろこび) の寛が、『新思潮(しんしちょう)』に誘(さそ) われて作家(さくひん) として成功(せいこう) した。作家(さくひん) として成功(せいこう) した寛(かん) のはそのためだ。

自分の雑誌『文藝春秋(ぶんげいしゅんじゅう)』を作り、若い作家たち(わかわき) が作品(ぶんさく) を発表(はっぴょう) できるようにした。作家たちの中には、のちにノーベル文学賞(ぶんがくしょう) を受賞(じゅしょう) し、川端康成(かわばたやすなり) などがあった。



秋(あき) や芥川賞(あくたがわしょう) ・直木賞(なおきしょう) は、今(いま) でも続(つづ) いている。

菊池寛は若い作家(さくひん) を育(そだて) ることに、とても熱心(ねっしん) だつた。また、作家(さくひん) の地位(地位(ちいとう)) 向上(じょうじよう) や生活改善(せいかつかいぜん) にも力を尽(つく) した。そんな寛(かん) のもとには寛(かん) を慕(した) うたくさんの人(ひと) が集(ま) り、寛(かん) は文壇(ぶんだん) の大御所(おおごしょ) と呼(よ) ばれるようになつた。

さらに菊池寛は、作家(さくひん) をめざす人たちの励(あが) みや目標(もくひょう) となるよう芥川賞(あくたがわしょう) ・直木賞(なおきしょう) と直木三十五賞(なおきさんじゅうごしょう) を作(つく) つた。生活(せいかつ) の助けとなるように、賞金(しょうきん) も贈(おく) つた。

■ 『文藝春秋』 — 作品(さくひん) を発表(はっぴょう) する場所(ばしょ) —

* * *

「きくちかん新聞」は、この第 6 号で終了です。これまでの新聞は、Web で見ることができます。

